

【事例 H29-35】札幌市

中高生・若者向けゲートキーパー啓発マンガ冊子

【概要】若者が友人から相談を受けた際に適切な対応ができるよう、ゲートキーパーの役割の大切さを表現したマンガ冊子を市内の中学生・高校生等に配付している。札幌市精神保健福祉センターが2016年度に制作し、札幌市教育委員会や北海道教育庁等の協力のもと、2017年度に市内の中学・高校・フリースクール等を通して全生徒に配付した。2018年度からは新中学1年生に配付している。また、ウェブサイト「札幌こころのナビ」において電子版を掲載している。

【大綱の分類】

- 2. 国民一人ひとりの気づきと見守りを促す
- 5. 心の健康を支援する環境の整備と心の健康
- 11. 子ども・若者の自殺対策を更に推進する

【政策パッケージ分類】

- 重点1-2) 若者の抱えやすい課題に着目した学生・生徒への支援の充実
- 重点1-5) 若者自身が身近な相談者になるための取組
- 基本3-1) リーフレット・啓発グッズ等の作成と活用
- 基本3-3) メディアを活用した啓発

【事業実施年度】2018年度事例（2016年度～2018年度）

【事業予算】576,000円

【利 点】

- ▼ 若者に馴染みの深いマンガを活用したことで、若者の目に留まり、手に取ってもらえる。
- ▼ ストーリーを通して伝えるため、若者にとって敷居が低く、かつ理解しやすい。
- ▼ 若者たちに悩みを抱えた人への適切な対応を伝えることで、若者自身がゲートキーパーとなることが期待できる。
- ▼ 友人から相談された若者が、対応方法がわからずに一人で悩みを抱えてしまうなどのリスクを回避することができる。

【実施に至るまで】

「中高生世代の若者」及び「悩んでいる本人ではなく周囲の人」を対象とした理由

- ① 未成年者の自殺死亡率が政令都市中2番目に高かった（2015年数値）。
- ② 思春期の若者は、悩みを抱えても相談することが少なくなり、相談してもその相手は友人が多くなるため、若者のSOSに最初に触れる可能性が高いのは身近な友人である。
- ③ 若者が、友人の危機に遭遇した際に適切な対処方法を知らなければ、一人で悩みを抱えてしまう危険性がある。

計画を立てる上での工夫

- ① パンフレット類では文字が多くなり、見た目のインパクトも欠けるため、子どもの目に留まらず、手にすら取ってもらえないと考え、子どもに馴染みの深いマンガを活用し、そのストーリーを通して啓発していくことにした。
- ② 中高生世代の若者に共感してもらえよう、実態に近いと思われる悩み（学業や家庭に関する問題）を軸としたストーリーで展開することにした。
- ③ 悪い対応と良い対応の描写の対比によって、ゲートキーパーの役割の大切が強調されるよう心掛けた。

- ④ 傾聴や相談をした直後に悩みが解消したかに思える表現は避けるように留意した。
- ⑤ 上記の意図を正確にマンガへ反映するためには、編集者の役割が大きいと見え、ノウハウを持つ民間業者へ業務委託（企画競争入札）をすることにした。

具体的な内容

▼ 冊子の構成

- ・マンガは2話構成（男子中学生の学業に関する悩み、女子高校生の家庭に関する悩み）。なお、制作にあたっては、札幌市教育委員会の意見を参考にした。
- ・悩んでいる人に対して、友人や家族といった周囲の人達の些細な反応が、その人にどのように影響するかを描いたストーリー。その描写を通して、悩んでいる友人から相談された時や悩んでいる友人を見かけた時の適切な対処方法を伝える。
- ・マンガの他に、ストーリー内で示した描写を解説するページ、ゲートキーパーの説明や相談機関紹介のページ、ウェブサイト「札幌こころのナビ」を周知するページを設けている。

▼ 配付先・配付方法

- ・2017年度、市内の中学・高校・特別支援学校などに通う生徒一人ひとりの手に渡るように、札幌市教育委員会や北海道教育庁等の関係機関に協力をお願いし、市内202校（中学校107校、高等学校52校、中等教育学校1校、専修学校4校、特別支援学校19校、通信制・フリースクール19校）に計103,310部（教職員分を含む。）を配付した。
- ・2018年度は、市内の中学校を通して新中学1年生に配付しており、2018年度は119校16,910部を配付した。2019年度以降も継続する。
- ・配付場面や活用方法については、学校各々の判断となるため特に指定はしていないが、夏休み明けの自殺を防止するために、札幌市教育委員会が夏休み前に各校あてに発出する通知で、マンガの活用事例を紹介している。
- ・配付に併せて、学校向けにアンケートを実施しており、配付場面や活用方法、生徒の反応や教職員の感想等を収集している。

【成果】

- ▼ 学校向けアンケートから、継続的な実施により、学校における活用方法も変化してきていることが明らかとなった。「配付のみ」の学校が初年度は約7割であったのが2018年度では約3割となり、逆に「説明を加えて配付」「教材として配付」した学校が、初年度は約2割であったのが2018年度は約7割となった。

配布方法	2017年度	2018年度
配布のみ	69%	28%
説明を加えて配付	16%	63%
教材として使用	8%	6%
その他・未回答	7%	3%

- ▼ 配付の反応としては、「興味深く読んでいた」「真剣に読んでいた」「マンガなので読みやすかった」といった肯定的な感想が大多数である。
- ▼ 継続的な実施により、市内の多くの若者に対して、ゲートキーパーの普及啓発を行うことが出来ている。
- ▼ 配付の反響としては、市内の高校の放送局員から「いつも学校から配られるカードは見る前に失くしてしまうがマンガだと手に取った時にすぐ読む」「この冊子を受け取って、札幌市の自殺対策に興味を持った」との感想を直接もらい、ドキュメンタリー形式のラジオ番組（高文連出品用）の素材として取材を受けた。※本ラジオ番組は、ウェブサイト「札幌こころのナビ」で公開中。
- ▼ そのほか、マンガ制作と同時期に公開したウェブサイト「札幌こころのナビ」と併せて、テレビや新聞等でも報道もされ、ゲートキーパーに関して大々的な啓発につながった。

【補足】

- ▼ ウェブサイト「札幌こころのナビ」で掲載中。



(裏表紙)



【課題】

- ▼ マンガは、友人との関わり方を軸としたストーリーであるため、通信制の学校に通う子どもや友人関係が希薄な子どもにとっては実感がわからないものとなっている。

【事業種別】若年層対策

【準備期間】120日

【人数】1人

【人口規模】1,970,000人

【財政規模】1,045,400,000,000円

【自治体負担率】33%

【事業対象】中学・高校生世代の若者

【支援対象】中学・高校生世代の若者

【委託の有無】有

【実施主体・問合せ先】札幌市保健福祉局障がい保健福祉部精神保健福祉センター

TEL : 011-622-5190

Mail : kokoronocenter@city.sapporo.jp

【参考資料・文献】

- (ア) [ウェブサイト「札幌こころのナビ」マンガ・動画集](#)